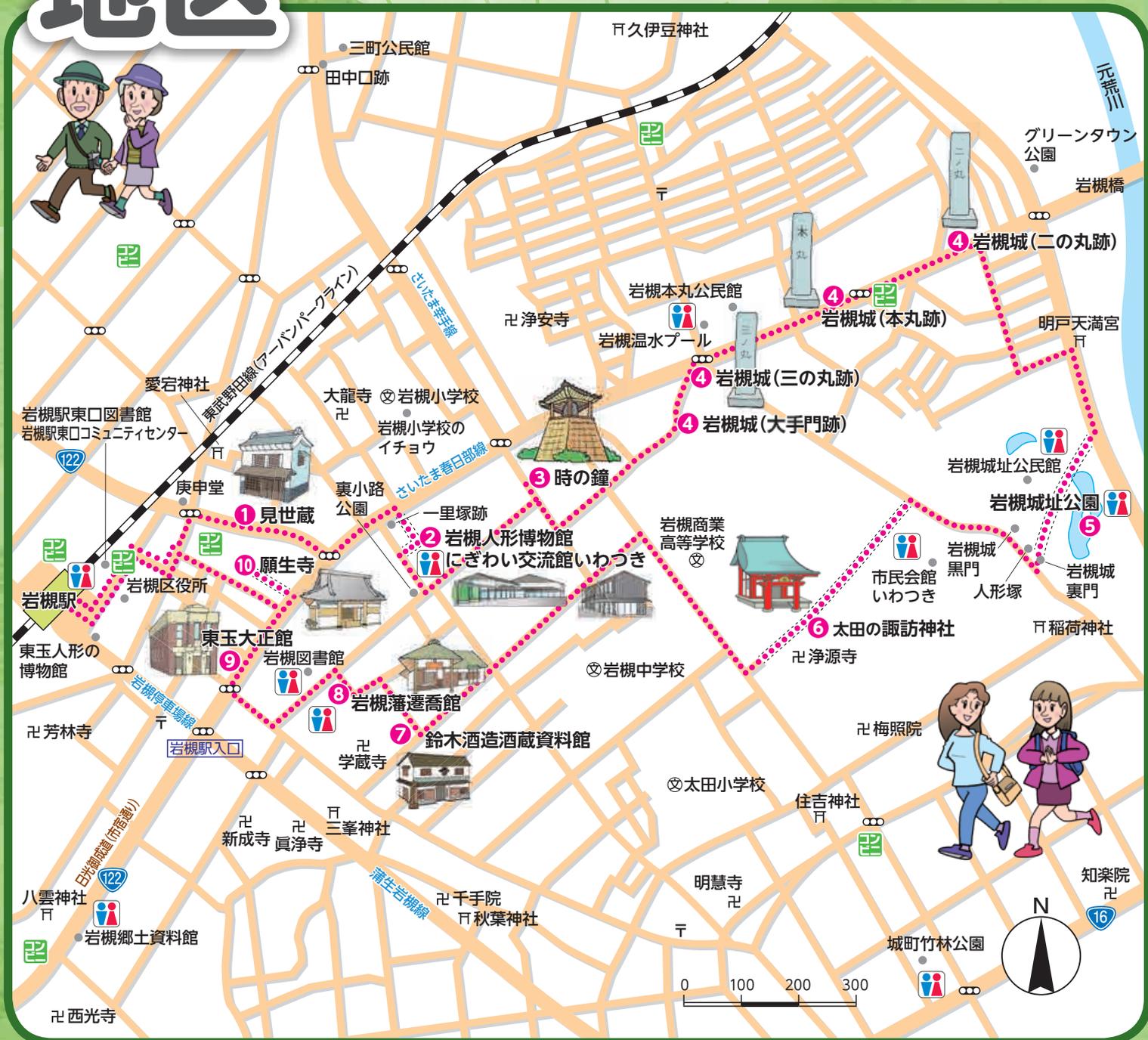


岩槻 地区

Iwatsuki

城下町を歩く

岩槻人形博物館を訪ね、岩槻城址公園や時の鐘、藩校遷喬館など岩槻藩ゆかりの地をめぐり、歴史と伝統が息づく城下町を歩いてみませんか。



..... コース トイレ コンビニ



①見世蔵

長谷川家は、江戸末期から白木綿を扱う問屋を営んできました。白木綿はかつて岩槻の主要な産物であり、「岩槻木綿」として有名でした。この見世蔵は棟札等から明治10年の建築とみられています。通りに面した土蔵造2階建の店部分と後ろに生活の場である主屋があります。平成28年(2016)に国の登録有形文化財になりました。



②岩槻人形博物館・にぎわい交流館いわつき

岩槻人形博物館は令和2年(2020)に日本初の公立の人形博物館として開館しました。

人形とそれに関する資料の保存収集と調査研究、展覧会や講座、ワークショップなどの活動を通じ、人形文化の魅力を伝えています。

同敷地内には、岩槻のまちなかに賑わいを生み、交流を促進する拠点となる「にぎわい交流館いわつき」も併設されています。



③時の鐘

寛文11年(1671)岩槻藩主阿部正春が設置し、その後、鐘にヒビが入り音色が悪くなったため、享保5年(1720)岩槻藩主永井直陳により改鑄されました。かつては旧藩士が毎日鐘を撞いていましたが、平成13年(2001)に自動化されました。現役の「時の鐘」としては県内最古のものです。



横にあるイチヨウは、明治29年(1896)に岩槻藩主大岡家の宗家である九条道孝侯爵によって植えられたもので、幹周り約4.7m、樹齢約130年の巨木です。

④岩槻城(大手門・本丸・二の丸・三の丸)

岩槻城は15世紀後半に築かれた城郭で、別名「白鶴城」などとも言われています。

岩槻城が築かれた場所は現在の市街地の東側で元荒川の後背湿地に半島状に突き出た台地上に本丸、二の丸、三の丸などの主要部があり、沼地を挟んで北側に新正寺曲輪、南側に新曲輪・鍛冶曲輪等がありました。また、城と城下町を囲むようにして大構と呼ばれる土塁と堀が築られました。



明治期に本丸のほぼ中央部を買い、春日部に至る道路が整備されたことなどにより、城跡の面影は無くなってしまいましたが、明治時代に旧藩士たちによって製作された絵画資料「岩槻古城八景」により往時の岩槻城を伺い知ることができます。

⑤岩槻城址公園

岩槻城址公園はかつて岩槻城の南にあった新曲輪と鍛冶曲輪のあたりに位置しています。これらの曲輪は豊臣秀吉の小田原攻めに備え、岩槻城の防衛のため築かれたともいわれています。大正14年(1925)に岩槻城跡として県指定文化財となりました。



公園内には、市指定文化財の岩槻城城門(黒門)、裏門、ケヤキの木などがあります。

⑥太田の諏訪神社

祭神は健御名方命で、社伝によれば岩槻藩主阿部正次が軍神として信濃国諏訪上社から勧請したと伝えています。

江戸期を通して家臣の武術鍛錬の祈願所でもありました。

また、覆屋で覆われた本殿は建築の技法に江戸時代前期の特徴がよく残されており、平成26年(2014)市指定文化財となりました。



⑦鈴木酒造酒蔵資料館

明治4年(1871)創業からの伝統の酒づくりを今に伝える歴史的資料・道具類の展示や酒造りの工程を紹介しています。

併設の直売所では、お酒の販売などを行っています。



⑧岩槻藩遷喬館

岩槻藩主大岡家の家臣児玉南柯によって寛政11年(1799)私塾として開設され、後に藩校となりました。県内に残る唯一の藩校で、県指定文化財になっています。

現在ある建物は教場として使われていたものですが、かつては広大な敷地に武芸稽古場や菅原道真を祀った菅神廟などもありました。

明治維新後民間に払い下げられ、住居として使われた時期もありましたが、平成15年(2003)から18年(2006)にかけて復元工事が行われ、現在の姿になりました。



⑨東玉大正館

大正時代後期に銀行として建てられたレンガ造り2階建ての洋館建築です。建物正面を3分割にし、左右に窓を対象に配置した大正時代の中小規模銀行の典型的な様式です。

平成19年(2007)国の登録有形文化財になりました。



⑩願生寺

浄土宗のお寺で、實相山西方院願生寺といい、阿弥陀如来を本尊としています。寺の創立は大永年間(1521~28年)、寂誉門入和尚の開山ともいわれています。

市指定有形文化財の「阿弥陀三尊図像月待供養板碑」は室町時代から盛んに行われるようになった月の出を待つ民間信仰で、無病息災を願う「月待供養」の板碑と考えられています。

